

# 共通の貴重な体験をもとに熱く将来を語り ともに青春を生きよう!!



(題字・葛西 聖司)

## 渡邊 秀和

49年白門会副会長

あの懐かしい駿河台の校舎を巣立ってからはや30年になろうとしている。大半の同窓生は、立派な社会的地位を得ておられることだろう。私は、自衛隊というちよつと特殊な組織に入ったため、そろそろ次の世代にバトンタッチしなければならぬ立場に立たされている(自衛官の定年は55歳と比較的若い)。いわゆる第二の人生が待っている。同僚たちは、これに備えてあくせくしているこの頃である。その上、今の日本は何かちよつと具合が悪くなっているようだが、個人的にはそう悲観することはないと思っている。私達が子供の時を思い出してみれば、決して豊かでない生活を送っていたように思えるからだ。

## 50歳からが青春

さて、日本人の平均寿命は、先進国の中でもその長さは有数で、現在50歳台の私達には30年弱の平均余命がある。伊能忠敬は、50歳で隠居してから勉学を始め、日本全国測量の

偉業を達成した。

世界にはまだまだ貧しい地域があり、そこでは希望を持って生活することが困難であり、援助を必要としている人々がいる。これからは、存分に日本の社会だけでなく、世界の人々のために尽くすことができる。会社の利益のためだけに過労死する必要はない。命の尊さが当然のように叫ばれているが、命はそれ自体で尊いのではない。命を価値あることに使つて初めて尊くなるのだと思う。

パスカルは、「暇録(パンセ)」の中で、人間を一本の葦に例えており、人間の価値を考へることの中においている。これまで使つてしまつた時間は取り戻すことはできないが、それによつて得た経験は、今後の人生により良く活用することができると思う。

年を取つてはいても青春のように生きることが出来る。良く生きることは良く死ぬことでもあります。死は恐れるものではなく、恐れるべきは悪しく生きることでしよう。  
49年白門会の皆さん、これからとも楽しく青春を生きようではありませんか。

## CONTENTS

- 1 ページ
  - ★青春を生きよう! 渡邊 秀和
  - ★楽苦我喜(らくがき) 船見二三男
- 2 ページ
  - ★友へのメッセージ 増田 勝美
  - ★総会のお知らせ
  - ★広告募集
- 3 ページ
  - ★新年会レポート
  - ★キャンパス見学会レポート
- 4 ページ
  - ★HP管理人のつぶやき
  - ★会費納入のお願い
  - ★原稿募集
  - ★編集後記

## 楽苦我喜 船見二三男 (経済)

三十数年前は学生運動が吹き荒れていた。ノンポリの私は神田の古本屋を見て回つたり、喫茶店「ルノアール」等で友人と議論を交わしたり、たまには(いや煩悩に)マージャンを夜遅くまでやったものだった。

集会やシンポジウムやジャズコンサート等が数多く開催されていて楽しみであった。そんな中「都市の理論」の著者・羽仁五郎氏の講演は特に印象深いものだった。講演に来る途中、神田の「数そば」で昼食を食べて来たという。私も後に「数そば」で食べた旨があった。

羽仁氏は、日本が戦争に負けたのは物質的に貧しかったためという、また、栄養を十分にとらなかつたため、頭に十分な栄養が行かざる確な判断ができなかつたためという。しかし、本当に言いたかつたのは日本は原爆により戦争が終結し、そこから復興したが、ヨーロッパにおいて戦後はアウシュビッツを精算してからでないかと始まらないということだ。どうしてアウシュビッツであの大虐殺が起きてしまったのか。またどうして防げなかつたのか。アウシュビッツを総括しない限り戦後はない。そして、それを抱えて現在までも独裁政権下では凄惨な虐殺事件が起つていたのである。

あの時のカルチャーショックは大きく、その後の人間としての物の考え方非常に影響した。学生は世の中の動きに非常に敏感で先見性があります。現代の学生にも、授業では聞けない社会の在り方や物の考え方を教える講演等が、数多く開催される必要があるのではないかと。そんな思いが出が一杯詰まつた神田カルチャーランが今でも懐かしく、またそこに中大の校舎や白門が残っていないのが残念で堪らないと思うのは、私だけではないと思うのである。

# 友へのメッセージ

## 初陣我利有戦記

増田 勝美(法)

この戦いの幕は2月4日午後、属する業界の新年会において切つて落とされた。投票日まで後81日。関の声を発した時期は遅い。しかし、今からでも勝算はある。状況は必ず我に有利に展開するという強い思いがあった。しかし、4月27日、投票日の夜、思いは破れた。得票は657票。当選ラインの半分。惨敗であった。

光栄にも平成14年夏頃Y議員、秋にS議員、11月日議員から目黒区議会議員への立候補のお誘いを受けた。身に余るお言葉であったが、議員という役割になじめないという思いが強し、いずれも丁重にお断りした。ところがI議員から暮れも押し迫った12月28日、自分の地盤を引き継いで立候補して欲しいと誘われた。

選挙に関係する知人にあちこち相談したところ、多くは、「時期が遅い」「選挙は敵を作る」等の理由で「止めとけ」ということであった。中に、地盤を受け継ぐのであれば「やってみろ」との意見もあった。正中中、自分なりに熟考し、1月



6日I議員を訪ね、お誘いを受ける意志を表示した。ところが4日後I議員から呼び出しを受け出向くと、白紙に戻したい意向を婉曲にどくどく話されるので、自分の意思を撤回せざるを得なかった。議員という役割になじめない理由の一つである議員の信義を欠く行動の中に、自分自身が巻き込まれていた。I議員の行為に呆れると共に憤りを感じた。

事前運動を開始すると共に、時間人手、名簿整理という障壁が立ち上がった。49会同期の仲間の支援はただただありがたかった。電車を乗り継ぎ宛名書き、電話かけに来てくれた友。目黒に住んでいる友人の住所を郷里から知らせてくれた友。目黒に住む友人に私の事を紹介してくれた友などなど。本当にありがたかった。

### 657人の期待を胸に

告示後のある日の夜、選挙事務所のアパートに知的障害者が訪ねてきた。話をするうち障害者問題で解決しなければならぬ問題は身近にあることを学んだ。また、選挙が終わって暫くしたある日、見知らぬ方から声を掛けられた。「残念でしたね。期待していたのですが」と。話の中で障害者手帳を見せてくれた。I級の障害者であった。「障害者の生涯の生活支援」に期待をしておられた方がいることを知り、自分の行動の重みを改めて考えさせられた。

657人の方々の期待を無にしないために、コツコツと足を使った活動を進めていき、4年後勝利の報告を書かせていただけのことでは望み、そして必ずや現実のものとすることを祈誓する。

2003年度  
総会のお知らせ

「49年白門会」の2003年度の総会が開かれます。設立して3周年を迎え、新たな発展を期して4年目に突入したいと思えます。

総会終了後、懇親会もありますので会員の皆様のご出席をお待ちしております。

日時・平成15年6月28日(土)

午後3時(2時半より受付)

場所・中央大学理工学部校舎

(東京都文京区春日1-13-27)

懇親会・午後4時~6時、同校舎

会費は5千円です。



### 広告募集

この会報を作る費用を広告収入である程度賄う予定です。

広告スペースを5千円で提供しますので、ご協力お願い致します。原稿の版下があればそのまま使いますが、無ければ広告原稿を広報部で作成します。

お申し込み、ご相談は事務局までご連絡ください。

### 山崎司平法律事務所

第二東京弁護士会所属  
日本弁護士国民年金基金常務理事  
中大法学部非常勤講師

辯護士 山崎 司平

東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階  
電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

### 主要取扱申請書類等

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行

行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

# 今宵は時間よ止まれ!!

**新年会** 2003年  
1月25日(土)

この冬は当初、暖冬と予想されていたが、平成15年は元旦から3日連続の雪が舞うという幕開けとなった。今年も例年の寒さとはだいぶ違うようだ。それはまさに、先行きの見えない長いトンネルに入り込んでしまったわが国の厳しい経済状況を、気が感じ取ったのかも知れない。

そんな冬の一日、母校の先輩のご厚意によって、銀座Sami高松で新年会が開催された。今年も見慣れた顔が有楽町駅方面からやってきた。皆愛わりはなさそうだ。元氣そうに見える。会場の設営を待つ間に、ロビーは49年白門会で埋まってしまった。すでに新年会はスタートしている、そんな雰囲気も溢れていた。

「恒例となった」とは、かなり長い時間が持った会の言葉かもしれないが、3回目の新年会とはいえ49年白門会は、まさに恒例に従い葛西さんの味わい深い優しい語り口によって新年会の幕が開けられた。

昨年と比べ、43人と参加者が多く、初めての方も5人、女性の参加も多く賑やかな集まりになった。山崎厚大会長の挨拶に続き、参加者を代表して石川さんの乾杯の音頭で、再会の喜びを噛み締め会食に入った。各テーブルには食べ物や飲み物と共に、昔話の山盛りがあつて、テ-



ブルからこぼれ落ちてしまうのではないかと心配するほどだ。

初参加の仲間の自己紹介での一言一言は、傾かずにはいられない説得力と迫力があつて心を熱くした。また、遠方より参加された3人のその熱意に頭が下がり、49年白門会を支えていくこの意味を改めて考えることができた。

365日分の1日を心から楽しむために、今日もビンゴゲームが待っていた。多くの参加者から景品の提供があつた。まだまだ冷めてはいない遊び心と闘争心を一枚のカードに託し、熾烈なバトルが展開された。

お酒の量と時間が加算されていくが、名残の時間は酒量とは反対に次第に少なくなつてきた。いつしかCDから流れてくる母校の校歌が一人一人を包み始めた。

外に出ると冬の冷たさが数寄屋通りに吹き溜まつていた。近くの「ラ

## 30年前のキャンパスは…

### キャンパス見学会

2003年  
4月19日(土)

例年、桜の開花の時期に合わせて開催されていた「観桜会」が、今年から「多摩キャンパス見学会」という形に変えて実施された。これは多摩校舎の施設は元より、125周年記念事業の一環として新たに建設された施設を見学するという目的で開催されるものでした。

4月も下旬近くで、桜はすっかり葉桜。所々にピンク色の八重桜が彩りを添えていた。気候も穏やかで、学生達もクラブ活動に汗を流していた。グラウンドやキャンパスで出会う新入生らしき学生の、深刺とした姿が目眩しかった。

司法試験や公認会計士試験等の合格を目指す学生の勉学のための施設「炎の塔」には、土曜日にもかかわらず勉強する学生で溢れていた。今年度の国家試験の合格発表表で、中央大学の躍進が報道されることを大いに期待したい。

イオン」に24名が流れて二次会となった。ここでも店長の厚意により、日本酒が2本サービスされた。

懐かしい友と共に飲む会食の美酒は、時の歩みを止めさせてでも飲み交わしたいものだ。また、来年も元気で皆に会いたい。(小林 隆宣



催された。49年白門会の幟の下に集まった7名の会員は、1月の新年会以来の再会に話が弾んだ。3か月の空白は「やあ!」という一言で埋まり、ビール一杯で、昨日会ったその続きで応対しているような気分になる。しがらみとか遠慮がない同期と酌み交わす酒ほど旨いものはない。次は総会での再会だ。(広報部

**中山行政書士事務所**  
法務省認定(東)第98-186号入国管理局申請取次行政書士  
各種就労ビザ、帰化、永住、定住、営業許可申請、会社設立、法律相談一般行政書士、宅地建物取引主任者、不動産コンサルティング

**中山 和 實**

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-12-6  
高田馬場西商店街ビル402号室  
電話・FAX 03-5330-0651  
携 帯 090-3699-8733  
E-mail: n-kazumi@tkg.att.ne.jp  
http://home.att.ne.jp/sea/n-kazumi/

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

## 名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざア言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

**展望社** 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063



